

# 徳島の医師 気仙沼で長期診療

## 有住さん 患者に安心感

### 派遣あっせん「第1号」

東日本大震災の復興支援で、医療・介護系の約30団体で作る「被災者健康支援連絡協議会」（代表―原中勝征・日本医師会会長）が、被災地向けに医師の長期派遣のあっせんを始め、第1号となる徳島県北島町の有住俊広医師(37)が今月初め、宮城県気仙沼市立本吉病院に赴任した。

「頭が痛むんですね。暑い日が続きますから水分を十分にとって下さい」

同病院の診察室で有住医師が、気仙沼市の主婦小野寺美恵子さん(58)に優しく

話しかけた。小野寺さんは、「次に来たときにも同じ先生だと思おうと安心できる」と笑顔を見せた。有住医師はこの病院に2か月間、勤務する。

津波で1階部分が水没した同病院では3月下旬、院長を含む2人の常勤医が心労などで病院を去った。災害派遣の医師の応援も受け

たが、1週間程度で交代する仕組み。病院から要請を受けた同協議会で全国に呼びかけ、長期間支援に携わる医師を探していた。

有住医師は徳島県鳴門市の病院勤務だったが、実家の診療所を継ぐため秋に退職予定だった。被災地の医

療事情を知り、退職を早めて支援を申し出た。有住医師は、「支援をしたいという医師は多い。全国に広く協力を呼びかければ、長期間働くことの出来る医師も見つかると思う」と話した。

同協議会では、支援を希望する医師と被災地の医療機関を結ぶインターネットを使った派遣システムも構築。これまでに岩手県内の3病院から要請が寄せられ、ほとんどが1か月以上活動出来る医師を求めている。現場の医療ニーズと支

援側の情報を一元化し医師派遣の調整を続ける方針だ。同協議会の石川広己・

日本医師会常任理事は、「被災地ですぐに常勤医を探すのは難しい。見つかるまで

の間はこの派遣システム有効に活用してほしい」と話している。

派遣制度が始まり、気仙沼市で診療を開始した有住俊広医師。稲垣政則撮影

